富山市大山歴史民俗資料館

令和５年１月

歴民だより

ミニ企画展のお知らせ

山の写真展

期間　令和５年２月４日（土）～３月１９日（日）

企画展関連講座　「富山の山歩きの楽しさ」

11 月 13 日（日）、企画展「とやまの山歩き」の関連講座を開催しました。

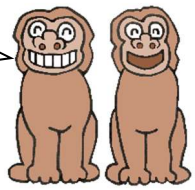
講師の佐伯知彦さん（登山家・登山ガイド）から、子供たちが県内の山々へ登り、その標高の合計で 10,000ｍを目指す取り組みなどを紹介していただきました。

また、富山県民で初めてエベレスト登頂を成し遂げた際の熱い思いをお聞きし、夢をあきらめないことの大切さを強く感じる講演会となりました。

受講者の感想

- 写真や動画をたくさん見せてもらい実際に登山しているような気分になれました。楽しかったです。
- 山歩きの楽しさがとても伝わりました。エベレスト登頂の貴重な体験や映像を見聞きできてとてもよかったです。
- 佐伯さんの山への情熱や山登りの楽しさやおもしろさを熱く語られている姿から富山の山のよさを伝える努力もされていることがよく分かりました。「あきらめなければ夢は叶う」印象的な言葉でした。
- 立山以外登ったことがありませんでした。こんなに素晴らしい山々があることに感激しました

当館の第２展示室では、「常願寺川の治水と発電」に関する常設展示をしています。今回は、その中から「常願寺川の治水と常西合口用水」について紹介します。



安政５年(1858)の大地震と水害で、川底にたくさんの土砂がつもり、暴れ川となった常願寺川は、明治時代になると毎年のように洪水を起こすようになりました。明治 24 年(1891)の７月の水害では、堤防が決壊し、各用水の取水設備はもちろん、用水路を含めた多くの田畑が流出してしまいました。その被害は安政の大水害に次ぐものでした。

森山茂県知事は、水害の悲惨な状況を目にして、明治政府に専門技師の派遣を要請し、オランダ人技師のヨハネス・デ・レーケが来県しました。

ヨハネス・デ・レーケ

デ・レーケは、来県後、立山や常願寺川をくまなく調査し、治水計画を提案しました。

①左岸取入の 12 用水の取水口を上流１ヶ所にまとめて、新規用水路を開削すること
②新堤防を築造すること
③下流の流路変更を行い、白岩川と切り離すこと
④川幅を拡張すること

これらの計画案の中で、最も難関だったのが常西合口用水の開削でした。用水の大規模な合口化は、当時としては全国でも初めてのことであり、短期間で完成したことは近代土木史にも残るものでした。

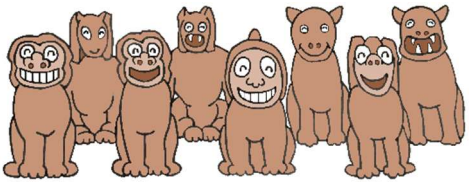
常西合口用水は、令和２年に世界かんがい施設遺産として登録されました。

世界かんがい施設遺産とは、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会が認定・登録する制度で、建設から 100 年以上経過した施設が対象となります。

富山市大山歴史民俗資料館

富山市亀谷１番地　TEL (076)481-1415　FAX (076)481-1417
E-mail ohyama-rekimin@city.toyama.toyama.jp

開館時間：９：30～17：00（入館は 16：30 まで）
観 覧 料：大人 100 円　高校生以下は無料
休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日
Web サイト：大山歴民　検索



「有峰狛犬」